もも・ネクタリン情報　No.3

令和6年4月12日発行

JAグリーン長野営農部販売部・経済部
JAグリーン長野もも部会

長野県No.１のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況について

１．ＪＡ管内　川中島白桃

	発芽	開花	満開	落花
平年	３／２５	４／１３	４／２０	４／２９
令和６年	３／３１			
令和５年	３／１４	４／　２	４／　９	４／１５
令和４年	３／２７	４／１４	４／１９	４／２５
令和３年	３／１３	４／　２	４／１７	４／２４

◆当面する重点作業について

1. 天候が不安定な場合は、受粉作業を徹底し、結実確保を図る。
2. この時期は、平年並みの降水量でも不足する時期となるため、４～５月は、干天が続くようであれば、１５日おきに３０㎜程度又は１０日おきに２０㎜程度のかん水を行なう。
3. 凍霜害に注意する時期が続きます。報道・情報・指示により万全な対策を実施する。
4. コンフューザーMM並びにスカシバコンを適期に設置する(設置期日は果樹総合情報参照)
5. 灰色かび病対策。果柄部にがく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の元となる。
   結実がよく、摘果が遅れると特に目立つため、除去を徹底する。
6. 葉面散布肥料を有効に活用する。

【もも薬剤防除】

◆第３回薬剤散布について

１.散布時期：４月２０日（土）～２４日（水）満開後頃　　散布日　　月　　日

２.調 合 量：水１００ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンＥ	６６㎖	―	―
カ ス ケ ー ド 乳 剤	25㎖	モモハモクリガ・ハマキムシ類	14 日
ウ　ラ　ラ　Ｄ　Ｆ	25g	アブラムシ類	14 日
アグリマイシン―１００	66g	せん孔細菌病	60 日

【ネクタリン薬剤防除】　※もも・ネクタリン混植園

◆第３回薬剤散布について

１.散布時期：４月２０日（土）～２４日（水）　　散布日　　月　　日

２.調 合 量：水１００ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンＥ	６６㎖	―	―
カ ス ケ ー ド 乳 剤	25㎖	モモハモクリガ・ハマキムシ類	21 日
ウ　ラ　ラ　Ｄ　Ｆ	25g	アブラムシ類	7 日
マ イ コ シ ー ル ド	66g	せん孔細菌病	28 日

【第３回薬剤散布　もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

1. 散 布 量 :10a当り⇒400ℓ 以上
2. 散布上の留意事項
   ①アグリマイシン水和剤は、ネクタリンには登録が無いため使用しない。また飛散しないように注意する。
   ②訪花昆虫(ミツバチ・マメコバチ)保護のため、記載以外の殺虫剤は、絶対に使用しない。

③アブラムシ類の多発が心配される園は、ウララDFを 2,000 倍(水 100ℓ 当りに 50g)で使用する。
④毛じ障害(りんごうどんこ病)、灰星病(花腐れ)、灰かび病の発生が心配される園は、フルーツセイバー 1,500 倍(水 100ℓ 当りに 66g)又はアンビルフロアブル 1,000 倍(水 100ℓ当り 100mℓ)を加用散布する。
⑤アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水 100ℓ 当り 33mℓ)を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、最後に混用する。

【もも薬剤防除】

◆第４回薬剤散布について

1. 散布時期：4月30日(火)～5月5日(日)　　散布日　　月　　日

※極早生種(たまき・なつき等)がある場合は、収穫が7月上旬より始まる。
アグレプト水和剤は収穫 60 日前までのため、アグレプト水和剤に代えてマイコシールド 1,500 倍(水 100ℓ当りに 66g・年 5 回・収穫 21 日前)を必ず使用する。

2. 調 合 量：水１００ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンＥ	６６mℓ	―	―
㊞カナメフロアブル	25mℓ	灰星病・うどんこ病・黒星病	前日
アプロードフロアブル	100mℓ	カイガラムシ類	14 日
アグレプト水 和 剤	100g	せん孔細菌病	60 日

3. 散布上の留意事項
①毛じ障害(りんごうどんこ病)の最重要防除時期となる。なお、結実良く果実が密着していると果面に薬液がしっかりと付着しないため注意する。

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第４回薬剤散布について

1. 散布時期：4月30日(火)～5月5日(日)　　散布日　　月　　日
2. 調 合 量：水１００ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンＥ	６６mℓ	―	―
(㊞カナメフロアブル)	25mℓ	灰星病	前日
アプロードフロアブル	100mℓ	カイガラムシ類	7 日
マ イ コ シ ー ル ド	66g	せん孔細菌病	28 日

3. 散布上の留意事項
①もも混植園は、㊞カナメフロアブル 4,000 倍(水 100ℓ当りに 25mℓ) を加用散布する。
②マイコシールドに代えて、クプロシールド 1,000 倍(水 100ℓ当りに 100g)＋クレフノン 100 倍(水 100ℓ当りに 1,000g)を使用してもよい。薬害防止のためクレフノンを必ず加用する。展着剤はササラ 3,000 倍(水 100ℓ当りに 33mℓ) がよい。白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

【第４回薬剤散布　もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

1. 散 布 量:10a当り⇒450ℓ 以上
2. 散布上の留意事項
①早生種は収穫前日数に注意して散布を行う。
②訪花昆虫(ミツバチ・マメコバチ)保護のため、記載以外の殺虫剤使用は絶対にしない。
③カナメフロアブルに代えて、ストロビードライフロアブル2,000倍(水 100ℓ当りに50g)でもよい。
④ウメシロカイガラムシ対策として、アプロードフロアブルを散布するため、枝・幹等にムラ無く掛かるよう留意する。
⑤種有巨峰隣接園は、アグレプト水和剤に代えてマイコシールド 1,500 倍(水 100ℓ当りに 66g)を使用する。
⑥アグレプト水和剤は、ネクタリンには登録が無いため飛散しないように注意する。
⑦アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水 100ℓ 当り 33mℓ)を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、最後に混用する。

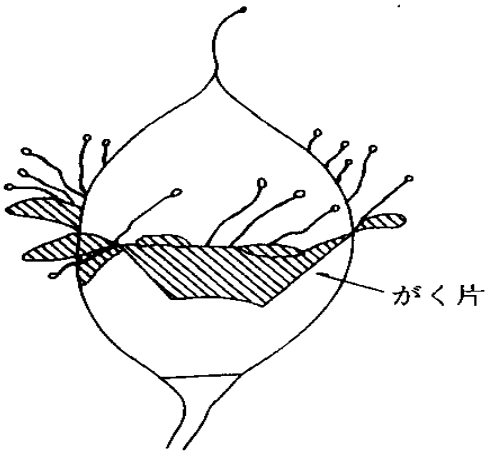
◆灰星病対策について

灰星病は、せん孔細菌病と病斑の症状が似ている。区別がつかなくとも、共に処分する。
症状は満開期頃から見え始めるので、一斉点検を行う。開花期に「花腐れ」症状となっている部位がある。
発見したら早急に病斑部の切除を行い、切除した病斑部は、焼却処分の実施を徹底する。

◆予備摘果の時期と方法(一般的基準)について

1. 満開後20日頃になると、生理落果する果実は果面の一部が茶緑色になり生気を失う。満開後30日頃までに自然落果する。
2. 受精果(落果しない)はがく片が基部から離れ萎びてくる。
3. 予備摘果時期が遅れると果実肥大効果が少なくなり、果柄が硬くなり取れにくくなる！！
4. 予備摘果を始める時期の目安は、結実良好品種(白鳳、あかつき、なつっこ等)は、満開後20日頃(5月初旬頃)から。
5. 結実不安定品種(川中島白桃,秀峰等)は、満開後30日頃(5月中旬頃)からにする。川中島白鳳は最後にする。

※以上は、凍霜害被害等の無い通常事の目安です。結実量が特に少ない場合は、樹勢調節と生理落果の抑制のため予備摘果を減らす。



受精果は、果実が肥大してくると、がく片が基部から離れ萎びてくる。
受精果

◆ももうどんこ病並びにりんごうどんこ病(毛じ障害)について

毛じ障害は、「りんごのうどんこ病」です。毛じ障害の発生は、「あかつき・なつっこ」では、特異的に発生し、「なつき・あぶくま・西王母等」も多い。なお「川中島白桃」では、ほとんど発生が見られない。
りんご園(特に紅玉・つがる・シナノスイート等)の近隣では、特に多発が懸念されるため、注意が必要。

★「ももうどんこ病」の対策

①重点防除時期は、定期防除(5回目)対策薬剤を使用しているので、しっかりと実施する。

★「りんごうどんこ病(毛じ障害)」の対策

①感染時期は、落花期～落花15日後頃までで、それ以降は感染が見られない。
②重点防除時期は、定期防除(4回目)に対策薬剤を使用しているので、しっかりと実施する。
③果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。
④被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側(ホゾ側)のものを優先に残し、空枝にはせず、適正着果量を確保する。

★共通

①りんごうどんこ病(毛じ障害)は、後期症状になると、ももうどんこ病との見分けは困難であるため、発生時期・初期症状を把握し、判断する。
②薬剤が果実に掛りやすいよう、結実が良い場合等、果実同士が密着しないよう、摘果しておく。

	もも うどんこ病	りんご うどんこ病(毛じ障害)
発生時期	落花30日頃から	落花15日頃から(満開後20日後～25日頃)
初期症状	白粉をまぶしたような円形の病斑 毛じ内に白粉が観察される 果皮に異常は見られない	淡褐色～褐色の小斑点 毛じは健全 果皮が淡褐色～褐色に変化
後期症状	菌そうは消え、毛じや果皮が褐変 着色期に目立たなくなる 一部でやや凹んだサビ状になる	被害部はサビ状となる 軽微なものは着色に より目立たなくなる

◆せん孔細菌病春型枝病斑の除去をしよう！！

1）薬剤防除だけでは防ぎきれない難病害であるため、耕種的防除が重要になる。

2）耕種的防除として、春型枝病斑の剪除がもっとも重要になる。できるだけ、早く剪除し感染拡大防止を行う事で、かなり被害を軽減できる。発病は６月までだらだらあるため、２～３回程度に分けて、園内の巡回し病斑切除を行う。

①結果枝をよく見る。花腐れ症状がある、芽の基部周辺が褐色に変わっている、亀裂がある、ヤニが出ている等を確認し、病斑を確認する。

見つけたら、病斑部より、２～３芽程度多く切る。

②葉に病斑がみえたら、上部、又は周辺部に必ず春型枝病斑が存在するため確認する。

③風当りの強い園や園の外周部は多いので特によく確認する。

④弱い品種「黄金桃」、「白根白桃」、「川中島白桃」、「あかつき」等は注意。

◆部会体制が変更になりました

先般、令和5年度もも部会総会が開催され、支部体制が変更になりました。

令和3年より、真島フルーツセンター支部のもも・ネクタリンは、真島フルーツセンターから、篠ノ井西部東部流通センターでの荷造り・販売を開始し、支部体制の検討を行い、この度、篠ノ井支部と真島フルーツセンター支部は解散し、新たに篠ノ井更北支部が設立されました。

《栽培に関する営農技術員への問合》

徳武（篠ノ井西部）：080-1202-0260／外谷（篠ノ井東部・情報担当）：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤（信更）：090-7179-9866／伊藤（松代）：080-2239-6816

松橋（川中島）：090-4816-6297／根津（更北）080-1203-8576

松澤（若穂）080-1191-5166／寺澤（全域・情報編集）：080-1188-5229

吉澤（全域・情報監修）：090-2543-0365

栽培に関しての電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー（流通センター長兼務）松坂（篠ノ井西部）080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合》各流通センター・共選所／営農販売部（本所）：292-0930

《資材に関する問合》各ＪＡファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311